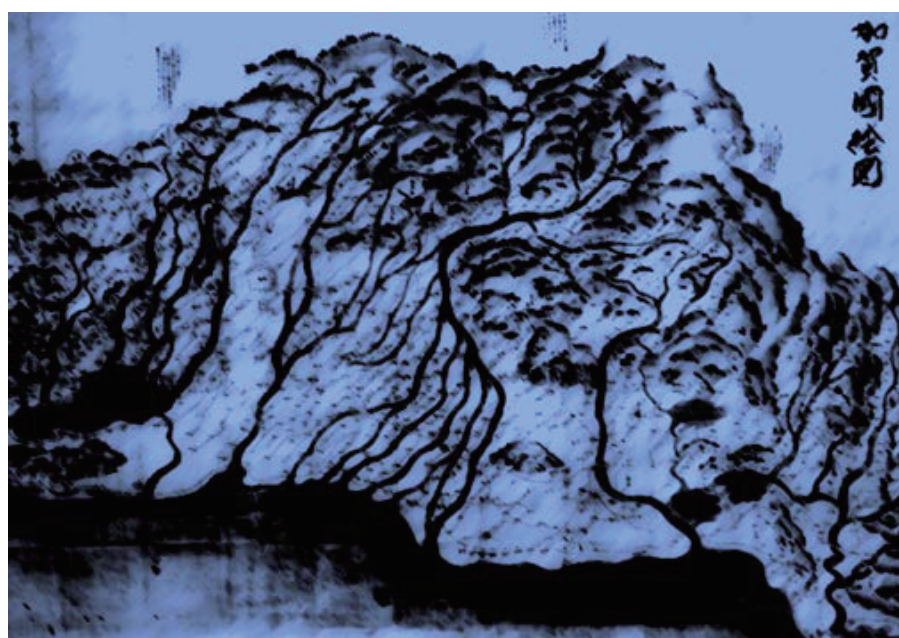


七ヶ用水の歴史と展望

中川 あい 訳



加賀国絵図

2021

白山共生大学院出版局

七ヶ用水の歴史と展望

中川 あい 訳

2021

白山共生大学院出版局

目次

緒言	3
はじめに	4
七ヶ用水の歴史	9
第1期（1903年以前）	11
第2期（1903-1962）	17
第3期（1962年以後）	20
結論	29
謝辞	30
参考文献	30

緒言

この本は、手取扇状地に住む人々の生活と、12世紀以来、七ヶ用水の建設工事がどのように行われてきたのかに関する歴史を記述したものである。この歴史は、大きく3つの期間に分けることができる。すなわち、1903年以前、1903年から1962年の間、1962年以降である。第1期は遅くとも12世紀末に始まったと推定され、枝権兵衛は安久湊ヶ淵の5つの取水口を鑿^{のみ}やピッケルを用いて素手で掘り、富樫用水と郷用水へ水を供給することに成功した。2番目の期間は、いわゆる明治時代のお雇い外国人の一人、オランダの河川工学者ヨハネス・デレーケの助言に基づき1903年に大水門が完成したときに始まった。そして3番目の期間に、七ヶ用水が大きく3つのグループに分けられて管理されるようになった。一番目のグループは旧富樫用水、富樫用水、そして郷用水、二番目のグループは中村用水と山島用水、そして、三番目のグループが大慶寺^{たいけいじ}用水、中島用水、そして新砂川用水である。このように分割することにより、七ヶ用水の管理・運営は効率的かつ効果的に行われるようになった。また、七ヶ用水の本流から手取川左岸扇状地を流れる宮竹用水への逆サイフォン管路を使った分水により、七ヶ用水のインフラとしての価値は飛躍的に高められることになった。すなわち、七ヶ用水により灌漑される梯川水系の面積は、手取扇状地全体の約30%に達し、手取川水系と犀川水系に梯川水系が七ヶ用水の灌漑地域に加えられることになった。1991年5月8日、手取川・七ヶ用水土地改良組合は、^{かなん}中華民国台湾省嘉南農田水利会とユニークな姉妹会提携することに合意した。この姉妹会提携には、石川県・金沢市出身の水利技術者・八田與一(1886-1942)が戦前台湾の烏山頭^{うざんとう}ダムとその下流の大用水網の建設を十年間(1915-25)にわたり主任技師として台湾に献身的な貢献をした事が縁となった。

この本は、正式に学術雑誌に掲載される前にオンラインで公表されている、下記の論文を和訳、編集したものである。

Nakagawa, T.R.M., Nakagawa, A. (2021) The Shichika Canal of Japan since the twelfth century. Proc. of the Institution of Civil Engineers: Engineering History and Heritage, Published Online on May 28, 2021, Ahead of Print.

令和3年9月25日 白山寓居にて

中川 あい

はじめに

図 1 は、手取川水系の全体図であり、この中に本研究対象地域の日本における位置が示めされている。

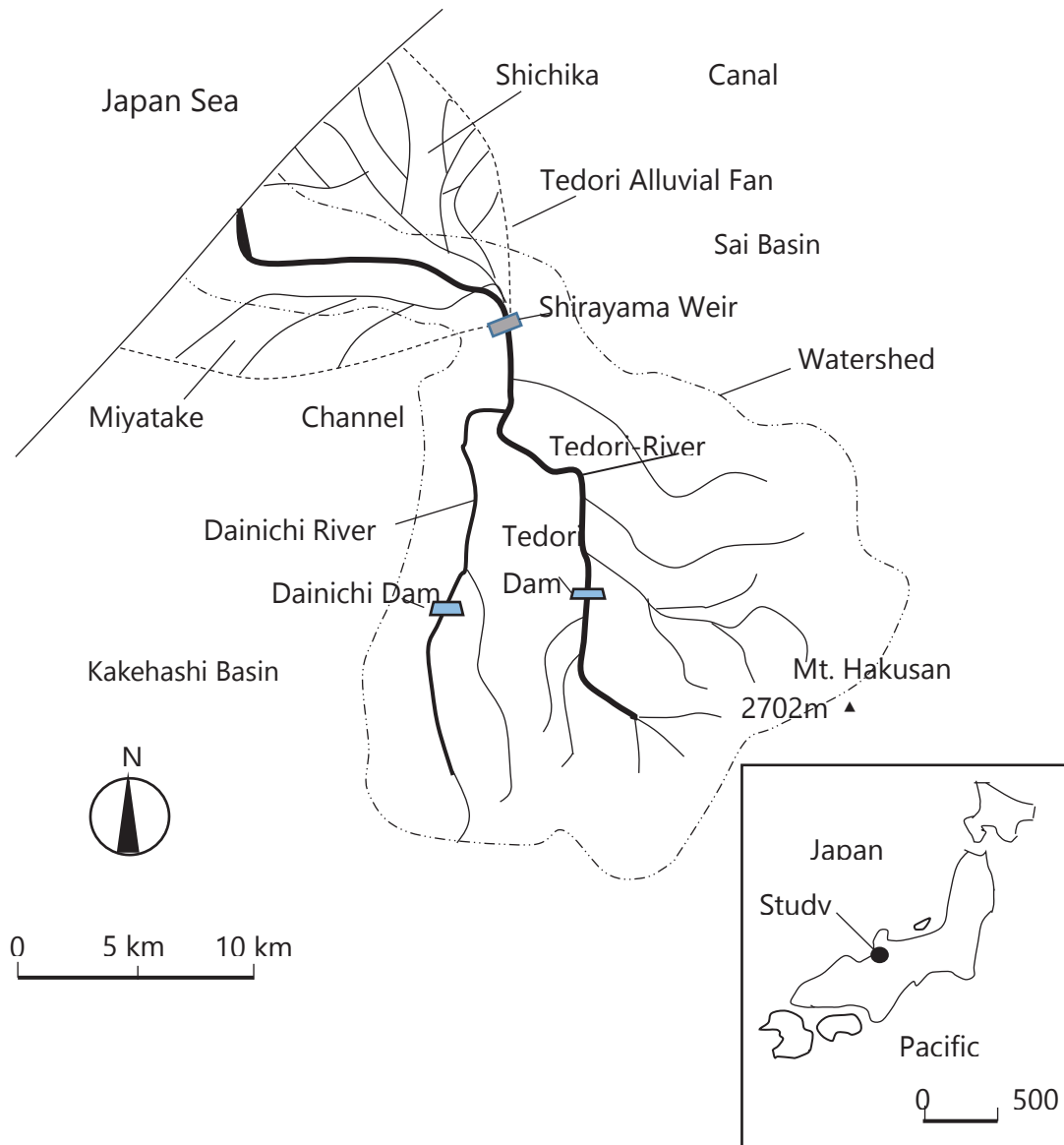


図 1 手取扇状地

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。